

4月の技術対策（水稻）

平成18年4月1日
JAきたそらち・JA北いぶき
空知農業改良普及センター北空知支所

1 移植時期を考えて、は種日を決定してください

移植時期が早過ぎたり、老化苗を移植すると、移植後の初期生育を悪化させたり、十分な茎数を確保しないまま熟期が進み、高品質米生産に影響します。地域の適正な移植時期（移植早限）から逆算し、育苗日数を確保できる日からは種を始めてください。は種作業を急ぐ前に、育苗床の乾燥と地温上昇に努めましょう。

表1 平均気温から算出した移植早限
(アダス平年値より算出)

育苗様式	移植早限	深川	沼田	幌加内
中箱マツ	12.0	5月17日	5月20日	5月23日
成苗型枠苗	12.0	5月17日	5月20日	5月23日
成苗ポット苗	11.5	5月14日	5月17日	5月20日
成苗箱ポット	12.0	5月17日	5月20日	5月23日

移植早限は、移植後5日間の平均気温が表の気温に達した日

表2 育苗様式・品種別育苗日数の目安

育苗様式・品種	育苗日数
中箱マツ	32日程度
成苗ほしのゆめ	35日程度
成苗きらら397	37～38日
成苗ななつぼし	37～38日

2 苗立枯病の防除

育苗中に低温・寡照が続くと苗立枯病（ピシウム菌・ガリウム菌）が発生する恐れがあります。苗立枯病を防止するために次の点に注意して管理してください。

苗立枯病を出さない管理とは！
低温時もハウス内を10℃以下にしない。（二重トンネルで被覆する）
育苗床の過湿・過乾を避ける。
低温時も、朝はハウス内の換気を必ず行いその後保温する。



苗立枯病が発生・発生が心配
○発生時：
タチガレエース液剤 500倍
箱当たり500mlかん注する。
○予防（天候不順の前に使用）
タチガレエース液剤
500～1,000倍
箱当たり500mlかん注する。

3 育苗時の除草剤使用

育苗中に使用できる除草剤として、「クリンチャーEW」があります。クリンチャーEWは、ヒエ専用除草剤で、広葉雑草には効果が劣りますので注意してください。

表3 水稻苗代除草剤

除草剤名	対象雑草	使用時期	散布量及び散布方法	注意事項
クリンチャーEW	ノビエ	は種後10日～ルイ5葉期まで	箱あたり1,000倍液を18ml散布	苗代での使用回数は1回。使用の際には展着剤を加用しない。

育苗ハウス後の後作物は避けてください（ポジティブリスト制度関係）

水稻育苗ハウスで、タチガレエース液剤、クリンチャーEW、ダントツ水溶剤等の農薬・除草剤を使用した後に、野菜等の作物を栽培すると作物に農薬が残留する恐れがあります（ポジティブリスト制度違反）。農薬・除草剤使用後のハウスでは、後作物の栽培は避けてください。（詳しくはJA、普及センターへ）

4 育苗管理の要点

(1) 育苗管理の共通的事項

温度計の設置～育苗ハウス毎に温度計を設置して温度管理を行ってください。大型ハウスで育苗する際は、温度計を数カ所設置してください。入口を両側に設置～巻き上げハウスによる換気では、適正な温度管理をするために入口を両側に設置し換気をしてください。
防風網の設置～晴れて強風の日には十分な換気ができず高温傾向になります。強風時に適正な温度管理を行うために、防風網の設置を再考しましょう。

(2) 育苗様式別の温度管理

表4 育苗様式別の育苗管理の要点(は種～1.5葉まで)

育苗様式		成 苗		中 苗	
項 目		は種～出芽揃		は種～出芽揃	
目 標		均一な出芽		均一な出芽	
管理の要 点		二重被覆(シルバーポリリ)二重トンネル(ポリフィルム)で保温、適水分を保つ。		二重被覆(シルバーポリリ)二重トンネル(ポリフィルム)で保温、適水分を保つ。	
管 理 内 容	管 理 方 法	基 準		基 準	
		昼	夜	昼	夜
		30～32	10 以上	25→20	10 以上
		初めの位置で30～32にする。35 以上にしない。	本葉の葉先25 で換気、出芽揃後は25 から徐々に温度を下げる。	初めの位置で30～32にする。35 以上にしない。	本葉の葉先25 で換気、出芽揃後は25 から徐々に温度を下げる。
管 理 内 容	管 理 方 法	基 準		基 準	
		目 安	目 安	目 安	目 安
		温度調節はハウスの肩換気で行う。高温時のみ二重トンネルを除去、低温時は二重被覆をいったん除去し地温上昇後に被覆する。被覆は出芽揃で除去する。	温度調節はハウスの肩換気とし、場合によっては裾換気もする。二重トンネルは夜間のみ使用する。	温度調節はハウスの肩換気で行う。高温時のみ二重トンネルを除去、低温時は二重被覆をいったん除去し地温上昇後に被覆する。被覆は出芽揃で除去する。	温度調節はハウスの肩換気とし、場合によっては裾換気もする。二重トンネルは夜間のみ使用する。
		ポット内の土に適度な水分を保たせる。	ポットの下までかん水が十分通っていること。	日中はポット内の土を乾かさないようにする。	晴天時の早朝に十分かん水し、余分な水分は蒸発させる。
管 理 内 容	管 理 方 法	基 準	目 安	基 準	目 安
		は種後のかん水は、3 回程度に分けて行う。	晴天時の早朝に2～3 回に分けてかん水し、ポットの下まで水を浸透させる。	は種直後は水を床土全体に浸透させる。	かん水は一度に多量に行い、床土全体に浸透させる。早朝にかん水し、低温が予想される時や午後は避ける。

《注意》

）ほしのゆめ等の徒長しやすい品種は、1.6葉以降の温度管理は基準の下限（18℃）で行ってください。